



作野 桂子 議員
SAKUNO Keiko

限られた財源だからこそ、検討段階から当事者の声を聞き、優先順位を判断すべきでは。

熱中症対策の推進を

Q 登下校時の熱中症対策やトイレ利用のため、クーリングシェルトや子ども110番の家、協力店舗を活用してはどうか。

A 子ども110番の家へ協力依頼やコンビニ、事業所の拡大を進め、安心して登下校できる環境を作りたい。

Q ネットクーラーなどを冷やすため学校内に冷凍庫などを設置してはどうか。また、置き勉を含めた通学時の負担軽減策は考えているのか。

A 冷凍庫の設置は、学校の実情や運用面、安全面、教員の負担とならないよう、調整を進める。置き勉は通学の負担軽減につながるため、学校と連携し、適切に対応する。

透明性のある情報公開とは

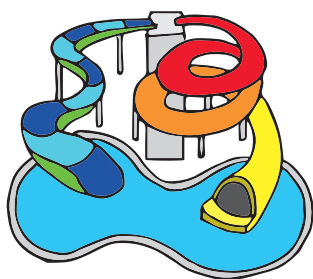
Q 透明性のある行政運営を実現するため、スカイプールに関する検討過程は何が改善されたのか。

A 再開に向けた収支シミュレーションを検討していたが、小学校の水泳授業を民間委託することになり、議会に示せていない。タウンミーティングも、運営方法などの方向性が定まらず、開催には至っていない。

Q 現時点では再開方針が確定しているわけではなく、再開・休止・廃止を含めて検討しているのか。

A 公共施設全体の在り方について熟慮を重ねている。

Q 町長の発言に「喜一憂している子どもたちのためにも早く「方向性」を示す必要がある」と考えるが、どうか。現時点で、具体的に言えることがない。



町民の声を行動につなげるべきでは



岩下 竜也 議員
IWASHITA Tatsuya

子どもたちの願いに寄り添い、その声を大切にする町政であってほしい。

厳しい財政状況だからこそ、今ある公共施設や地域資源を町民の暮らしにどう活かしていくのか、その視点を町政運営の中心に置くべきと考えている。また「できない理由」を並べるのではなく「どうすれば安全に利用できるのか」を考える姿勢が重要である。

Q 子どもたちから寄せられているボール遊び、グラウンド開放、勉強スペース、プール利用などの要望や、子育てアンケートに見られる遊び場不足などの声を、町はどのように受け止めているのか。

A 子どもや保護者から寄せられている声については、重く受け止めており、一定の課題だと認識している。



Q 社会教育センターの図書室や会議室を活用して、自習スペースの拡充や空きスペースの有効活用を検討できないか。

A 場所の確保や利用者の見守り体制を含め、自習スペースの拡充について検討していく。

Q 児童遊園のボール遊びについて、時間帯や場所、種目を限定した試行的なルール緩和を検討できないか。

A 今後、調査研究していく。

Q 学校プールについて、地域協力や安全管理体制を前提に、期間限定の一般開放を検討できないか。

A 一般開放は考えていない。